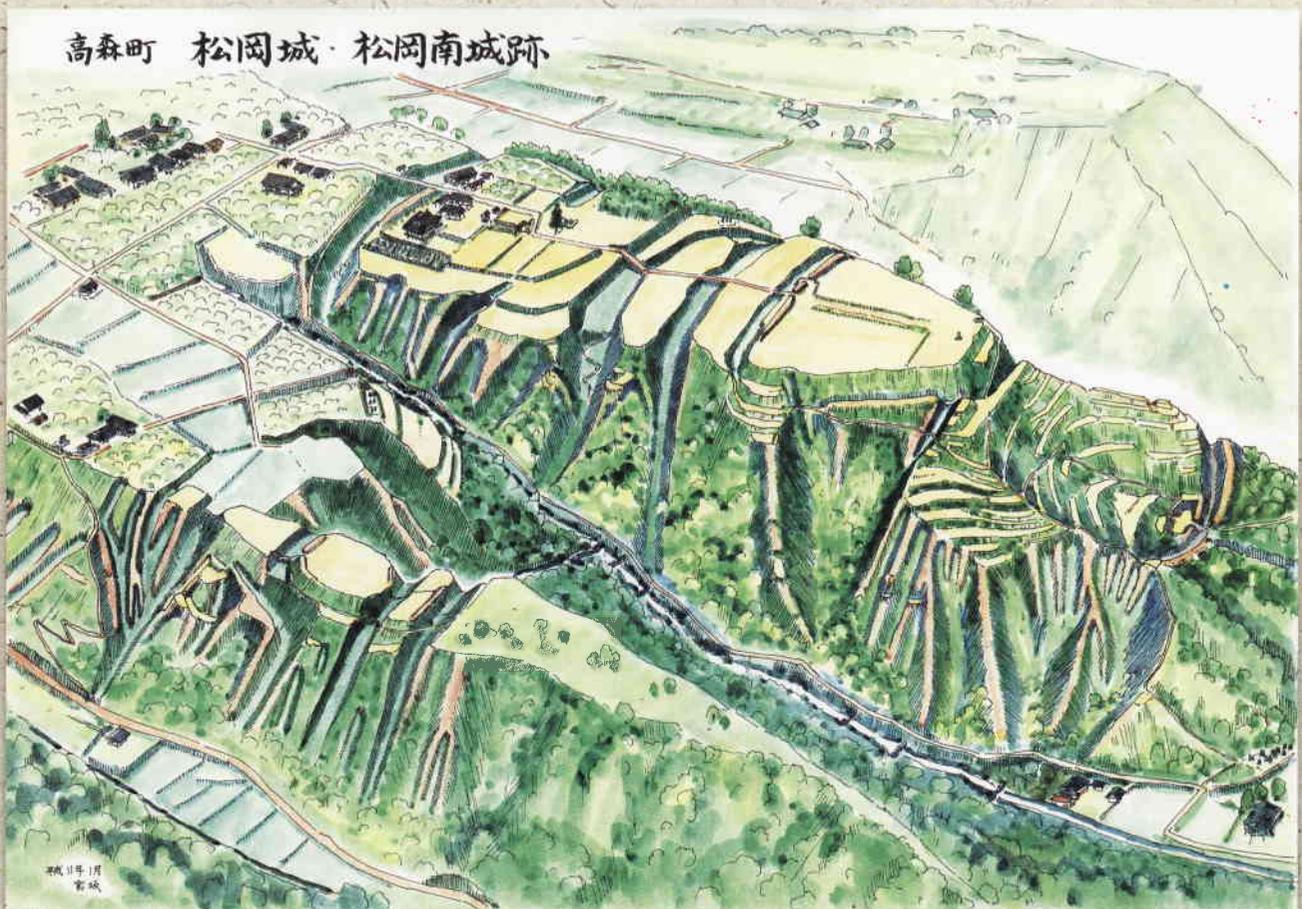


高森町史跡

中世の伊那谷を代表する段丘の城

# 松岡城跡

高森町歴史民俗資料館



松岡城・松岡南城跡鳥瞰図  
(宮坂武男 作)

# 1 松岡本城

松岡本城は南北朝の争乱の頃築かれ、その後戦国時代にかなり大きな修築が加えられておよそ200年間松岡氏の本拠地となった。松岡本城は高森町の東南部、東方に天竜川を望む標高560mの段丘先端、西方は平地に連なる地に築かれた城である。城地はその大部分が下市田字新井にあり、北は間ヶ沢、南は銚子ヶ洞の深谷をもって要害とし、東方下段平地に臨む傾斜地も急峻をなし、自然の城塞を形作っている。これに多くの空堀や土塁を施し、防備を堅固にしている。

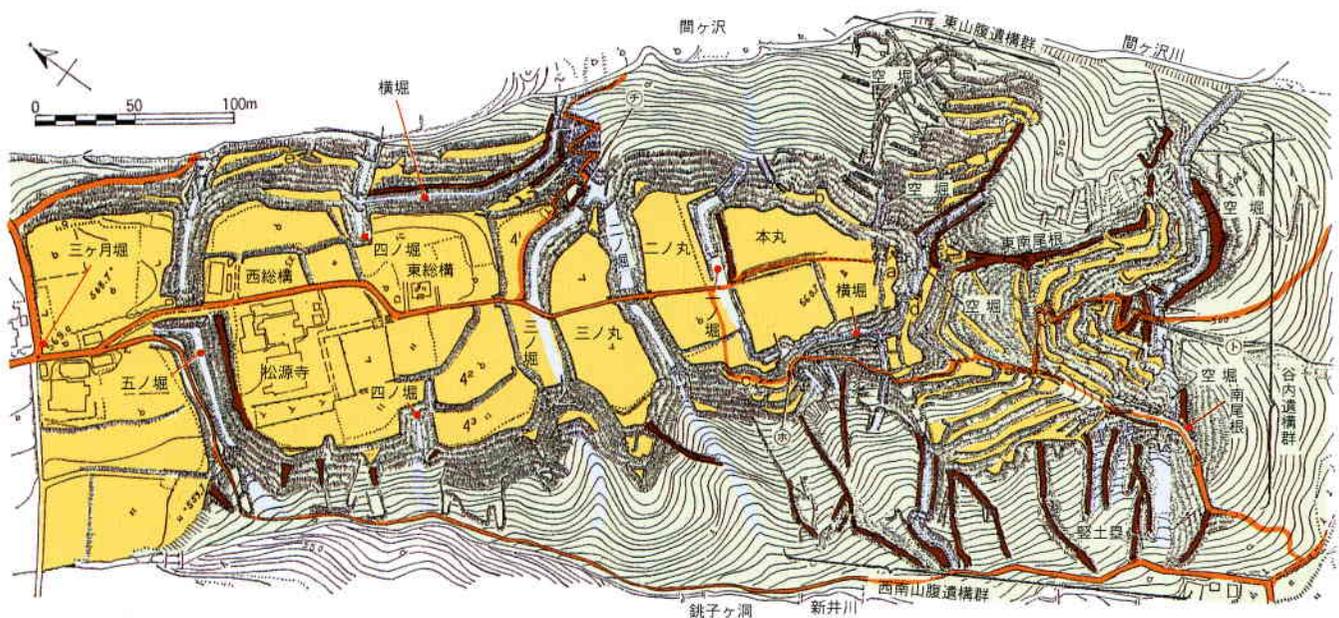


松岡本城跡

城内は本丸を除く大部分が開墾されて田畑になっているが、深く掘られた数条の堀跡は概ね残存しており、本丸・二の丸・三の丸・および惣構の各曲輪がはっきり残っている。

この松岡本城の大きな特徴は、舌状の段丘先端から本曲輪・二の曲輪・三の曲輪・惣構と作られ、その間に第一～第五の堀を構えてこれが真直ぐに連なるという連郭式の典型的な城であり、その城下は、地名等から飯田城・松尾城等に見られるように段丘上の奥側の方にあったのではないかとされる。一方、段丘崖の下方下市田側にも地名・出土遺物・交通路の関係等からこちらにも城下があったと考えられる。このように考えると、城下は古城の時代には段丘の上に、松岡本城の時代には段丘の下にあったと考えてもよいのではないだろうか。また、本城跡の残存状態は中世の段丘を利用した城跡としては県下で最もよいといわれている。

凡例  
 曲輪  
 空堀  
 土塁  
 道



松岡本城全体図 作図 三島正之

## 2 松岡古城

松岡古城は松岡本城のある段丘山手側にあり、間ヶ沢に面した南北200m・東西50mほどの細長い丘の上に大杉が聳えている。この杉は、古城の一本杉とか夫婦杉と呼ばれ、この杉を中心に松岡氏の最初の居館があったと伝えられている。東側は間ヶ沢という谷によって



松岡古城跡

天然の堀となっており、西方にも堀の跡の溜池が残っている。古城の西側には新井川という用水路が流れており、上流の大島川から取り入れて、鐘鑄原から原町のはずれを通り横大道・小路を経て松岡城内に達する用水路があったといわれている。古城の近くには現在も城・城原・堀・コウジ・クネ添などの城に関連のある地名が多く残っ



貞正夫人の供養塔

ており、松岡初代から十代以降までこの地に300年間位本拠地としていたことが伝えられている。最近はこの城跡は畑となって縮小してしまっているが、大杉の元に松源寺を開基した松岡嘉右衛門大夫貞正の夫人の供養塔とされる石碑もある。

## 3 支城

### ①松岡南城

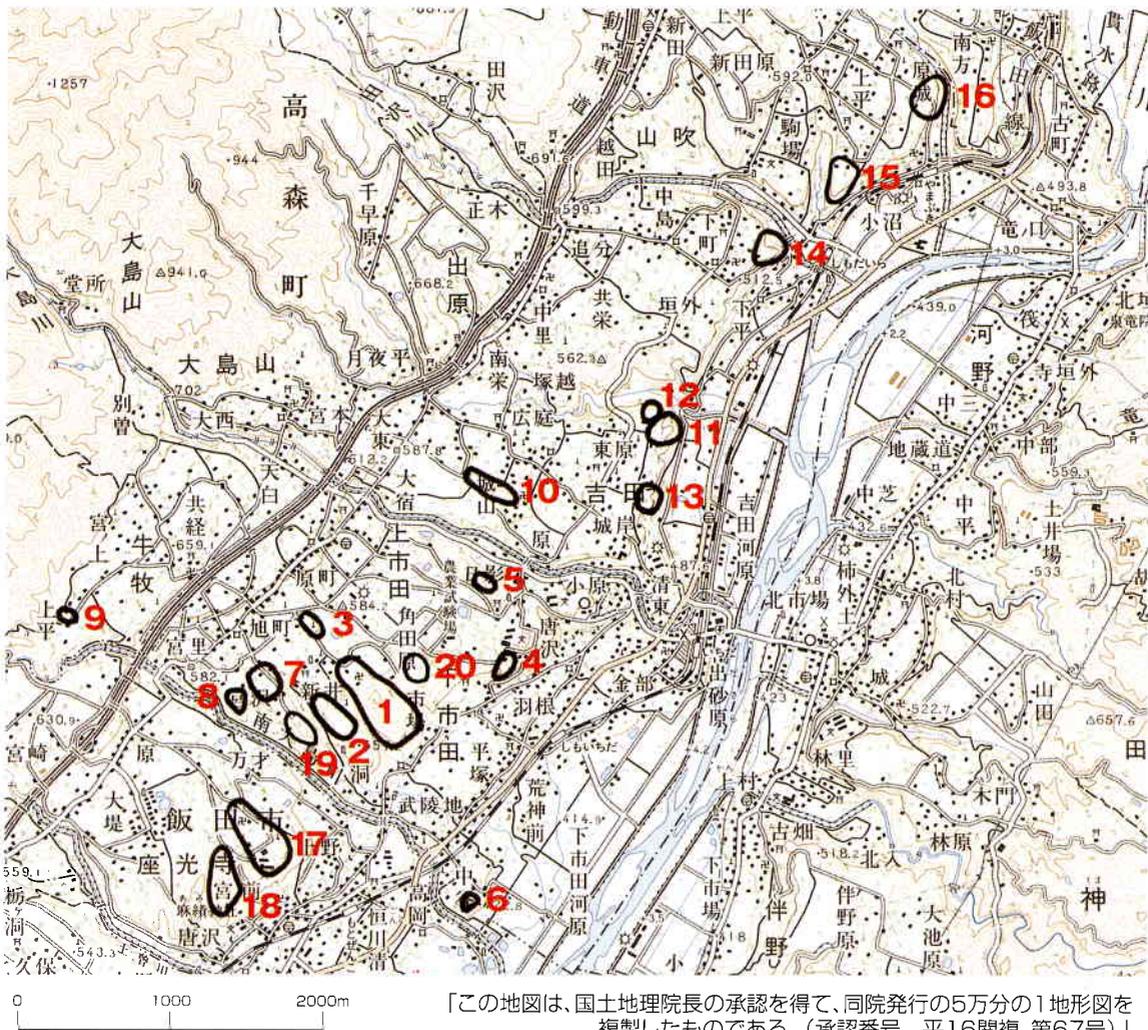
松岡本城の西南にあたり、銚子ヶ洞の谷地を隔てた台地上に、城郭の跡を残している。この城は松岡氏の隠居城であったともいわれ、規模は松岡本城の10分の1ほどである。北は銚子ヶ洞とヨソ洞を隔てて松岡本城と相對し、南には陣原の台地との間に順礼沢の深谷がある。東面は段丘の突端が下市田の平坦地に向かって傾斜し、西は松岡城外のコウジに続く平地になっている。城の規模は小さいが土塁や空堀の痕跡がよく保たれているので、本丸・二の丸・三の丸等がはっきりその形を残している。この城は台地の突端部より退いてその中ほどに本丸を築き、東方に広い平地を残しているのが特徴である。

### ②古御家

高森南小学校の南、唐沢原段丘の突端が西南江戸ヶ沢の深い谷で切られた要害の地にある。この城は、松岡氏の古い居館のあった所との伝承もあるが、地形的に展望がすこぶる雄大なところから見ても、松岡城の監視所としての役割を果たした城であったと思われる。東西に走る大きな空堀により、北の曲輪と南の曲輪とに区切られているが、北の曲輪は宅地造成で先年大きく破壊されてしまっている。南の曲輪は急斜面を段丘状に曲輪をめぐらし、北縁と西縁には高さ3mにも及ぶ土塁が築かれている。東部には「お姫様の化粧水」と呼ばれる湧水が今も湧き出ている。

## 4 松岡氏関連の城跡

松岡氏関連の城跡には、松岡本城のほかに最初の居館といわれる松岡古城、そして支城として松岡南城と古御家・大丸山砦、さらに属城と伝えられるものに城山城・吉田本城・吉田古城・吉田南城・坂巻城・次郎城・洞頭ノ城・大下砦（以上、市田）座光寺北本城・座光寺南本城（飯田市座光寺）、原ノ城・山吹城・天伯城（山吹）などがある。



- 1 松岡本城 2 松岡南城 3 松岡古城 4 古御家 5 大丸山砦 6 坂巻城 7 洞頭ノ城 8 大下砦
- 9 次郎城 10 城山城 11 吉田本城 12 吉田古城 13 吉田南城 14 山吹城 15 天伯城
- 16 原ノ城 17 北本城 18 南本城

※ 関連史跡 19 陣原 20 御射山社

# 松岡氏の略史

松岡氏は平安時代の終わり11世紀末頃から江戸幕府が開かれる直前の天正16年(1588年)徳川家康により改易されるまでの約500年の間市田の地を支配した。

## 1 発祥期(平安末期から鎌倉末期まで)

平安時代、前九年の役(1056~62年)で敗れた陸奥の安倍貞任の次男仙千代が市田郷の牛牧村に逃れて来て、郷民に推されて地頭となり、松岡を名乗り松岡平六郎貞則と称した。これが市田松岡氏の初祖といわれている。その最初の居館は、今の上市田地籍の「古城」の地に構えたといわれている。鎌倉時代における松岡氏のことには鎌倉幕府の弓始の射手を勤めたことが『吾妻鏡』に表れる外は分かっていない。ただ鎌倉時代の終わりまでのおよそ300年間は「古城」の地に館を構えていたと思われる。

## 2 興隆期Ⅰ(建武の新政以後の南北朝及び室町時代)

南北朝争乱の世になるに及んで、平坦の地にある「古城」の館から段丘先端の要害の地に城を構築し移ったと思われる。それ以後、改易されるまでのおよそ200年間この「松岡本城」が松岡氏の本拠地となった。

南北朝時代から室町時代にかけて、松岡氏は信州武家方の棟梁である守護小笠原氏の武将として大塔合戦や結城合戦にも出陣し、牛牧・吉田等の郷内の諸族はいうまでもなく、座光寺・宮崎・龍口等の諸氏までもその傘下に組入れるようになっていたという。

この松岡氏のことを史上にあらわれてくるのは、『安養寺記』によると、城主松岡伊予守貞景(道山心公)は深く仏教を信じ下市田に安養寺を創建した。その子貞政は至徳3年(1386年)亡父の三十三回忌を行い、且つ五部の大経二百巻をつくり、これを同寺に寄進した。そして、その二百巻のうちの『梵網経』(上下二巻)のみが今も安養寺に残っている。その奥書に松岡城主貞政の自筆が残っており、これは松岡氏関係史料として最古のもので、松岡氏の経済力の豊かさを示す重要な史料といわれている。

## 3 興隆期Ⅱ(応仁の乱以後の戦国時代前期)

守護小笠原氏が家督争いで分立するに及んで、国内の統制が乱れ、豪族が互いに争う戦国の世になり、松岡氏も近郷の豪族を従えた。そうした中で、松岡氏は諏訪上社の神事や御射山祭の神事で頭役を何回も勤めている。

その頃の城主頼貞・貞正2代の時は松岡氏の最盛時であったと考えられ、領地も現在の山吹・市田・座光寺・上郷の一部を領有し、下條氏・小笠原氏と並ぶ南信濃の大豪族となった。貞正は仏法を信じ坐禅の修行に励み明甫正哲居士と称し、永正年間(1510年)の頃牛牧に(後に兵火で焼け、現在の地に移された)松源寺を創建し、実弟文叔瑞郁禅師を開山とした。なお、文叔禅師は、臨濟宗妙心寺派の本山妙心寺の二十四世住持を勤めた。

## 4 興隆期Ⅲ（戦国時代後期）

天文23年（1554年）甲斐の武田信玄は、自ら大軍を率いて伊那に入り、抵抗の素振りを見せた鈴岡城の小笠原氏と神峰城の知久氏を攻め落とした。その様子を見た松岡氏は抵抗は無理と考え、武田の軍門に降り自領の安堵を図った。そして、松岡氏は50騎の軍役を課された。一騎に対し5人程の従卒を要したので、松岡氏は出陣の際には200人余の軍兵を出したことになり、その力の大きさが偲ばれる。

## 5 衰亡期（安土桃山時代）

天正10年（1582年）織田信長の軍が伊那郡に侵入し、飯田・大島両城を陥落させ、その後高遠城までも攻め落とした。この時、市田郷の瑠璃寺・松源寺・安養寺などはいずれも兵火によって焼けてしまった。また開善寺や安養寺の梵鐘が上伊那や諏訪まで運ばれていったのも、この時の仕業といわれている。伊那郡は飯田在城の毛利秀頼の治めるところとなり、この時代の松岡城主は松岡兵部大輔頼貞で、頼貞は信長に帰順し、その本領を安堵された。

ところが、信長の急死により、伊那郡は徳川家康の勢力下に入り、郡司菅沼小大膳定利が知久平城にあって、上下伊那郡を支配した。ところが、この頃は、信長の死後豊臣秀吉と徳川家康のどちらが後継者となるか決まっていなかったもので、信濃の豪族も去就を決めかねていた。

そうした天正13年（1585年）松本の小笠原貞慶は、徳川方から豊臣氏方に変心し、徳川方の保科氏を高遠に攻め、逆に小笠原貞慶は大敗を喫して松本に退いた。この時松岡右衛門佐貞利は徳川家康に誓詞を入れて臣服を約していながら、小笠原貞慶に味方し高遠の攻撃に向かったが、形勢が不利と見て途中で引き返した。

ところが、それを家臣の座光寺次郎右衛門が、伊那郡司菅沼定利に密告した。そこで郡司定利は直ちに松岡貞利をとらえた。後に松岡貞利は駿府の井伊直政に預けられ、家康の面前で座光寺氏と対決させられた。井伊直政は父、井伊直親をかくまってくれた貞利への恩に報いようとしたが、その願いはむなしく、松岡貞利は改易を命ぜられ、その所領は没収された。

ここに、「松岡古城」・「松岡本城」を本拠に約500年間続いた松岡氏の支配は終わりを遂げた。

### 参考文献

- ①高森町史 上巻 宮下功編
- ②文化財の栞 高森町教育委員会編
- ③伊那谷の城 赤羽篤・石川正臣監修
- ④高森町の史蹟と伝承を訪ねて 林藤人著
- ⑤長野県史蹟名勝天然記念物調査報告 第六巻 市村威人編
- ⑥高森町埋蔵文化財発掘調査報告書第11集 松岡城跡 高森町教育委員会
- ⑦下伊那史 第五・六巻 下伊那誌編纂会